

## 【琴路神社明治以降の諸事業について】

過去を振り返りましても、地域を守護する産土神社の更なる御神徳発揚の一環として、氏子の皆様の御理解と御奉賛により様々な事業が進められて参りました。

古くは120年前、明治34年に現在の社殿が建てられており、境内の石造物に刻まれた文字により往事を忍ぶことが出来ます。

昭和の御代においては、定期的な本殿屋根の檜皮葺き替え・拝殿屋根の蘆葺き替え事業に加え、18年より20年にかけては本殿改築工事が行われました。昭和51年には本殿屋根を銅板葺きに改め、以降随時社殿・境内の維持管理に心を配り神域の整備に努めて参りました。

さらに平成2年には御鎮座より750年の節目を迎え、社殿の増改築並びに拝殿屋根の銅板葺き替え等の記念事業が完了し、雨天時等におきましても諸祭儀が厳粛に斎行できる環境が整えられました。

この年の9月からは、琴路神社氏子婦人部会が月1度の氏子地区持ち回りによる清掃奉仕を行うようになりました。発会后20有余年の活動を踏まえ、会員の総意をもって新規事業としてはじまった清掃奉仕も、現在では氏子地区を挙げての活動として広がりを見せ、多くの方々のご理解を賜り継続して取り組んで頂いております。

10年後の平成12年には社殿内調度品の新調と境内周辺の整備工事等を行い、清浄なる神社本来の清々しい空間を護持できるようになりました。

平成20年には、2年ほど計画を早め天皇陛下御即位20年を記念し、拝殿扁額の彩色と境内の由緒舎並びに由緒板の新調等の事業を行いました。

その後、平成30年10月30日、当神社の御神幸祭行事が佐賀県重要無形民俗文化財の指定を受けました。これは例年11月2・3日の両日に行われる当神社の御神幸祭・馬駈神事から構成されるもので、祭礼の全てを一括指定される事は全国的に見ても類例がないとされています。

このように長き世に渡り、地域の守り神として先人達より大切に守られてきたこの社を、これからも私共の手で末永くお守りすべく務める事が大切だと思います。